



三鷹市
星と森と絵本の家

Mitaka Picture Book House in the Astronomical Observatory Forest

2023

回廊ギャラリー展示絵本作品公募
受賞作品

最優秀賞

『風つよい日はなし』 いのうえはるな 作

『もしかしてひょっとして』 小野こまど 作

優秀作

『しずかにせかいにつつまれて』 うみべのねこ 作

『雪と星座』 丸山華澄 作

佳作

『うちゅうからみたらしふってきた』 わかすぎじゅんや 作

『ぶうとお月さま』 小谷野晃 作

最優秀賞

『風のつよい日のはなし』

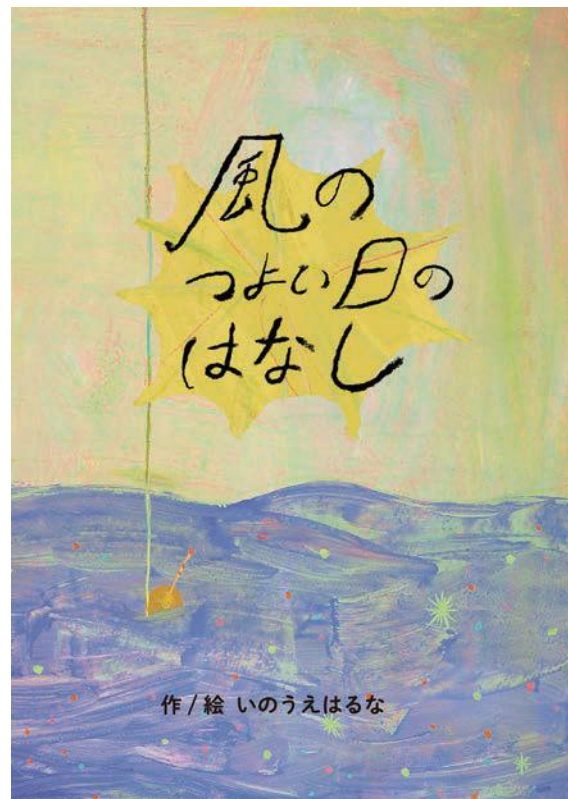
いのうえはるな（東京都）

作品について

宇宙の外には、惑星よりずっと大きな体のおじさんが住んでいて、宇宙の海で釣りをしています。ある日、釣られてしまった地球は職人の手によって丁寧にお寿司にされてしまうのです！

作者紹介

いのうえはるな
三重県で海と山に囲まれて育ち、散歩がだいすき
2020年愛知県立芸術大学デザイン専攻卒業
その後、Webコンテンツや広告などのプランナーを経験
2023年からイラストレーターとして活動中



「おっまそうな星が釣れたな」



職人直伝、地球すしのレシピ



釣り針に引っかかった地球



おじさんの腹の中で、他の宇宙人達を発見！
みんな いろんな食べられ方で来ているようです

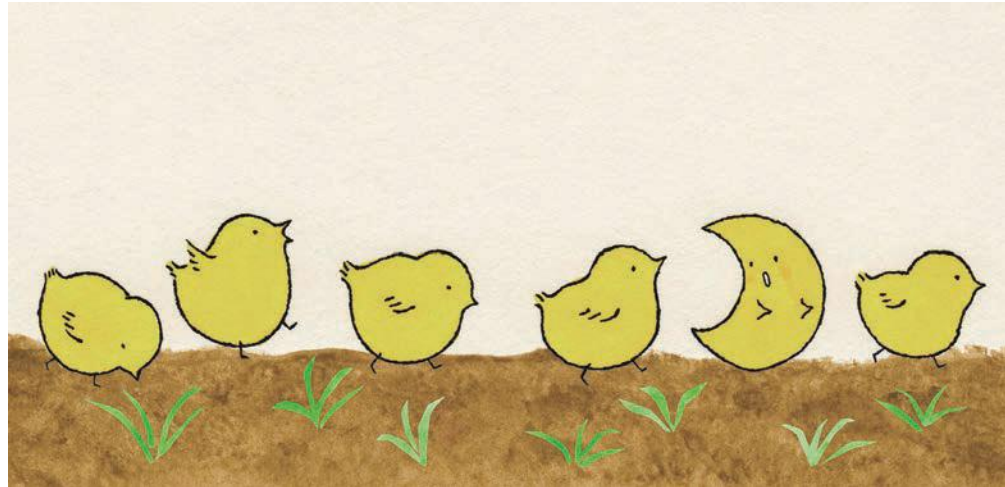
最優秀賞

『もしかしてひょっとして』

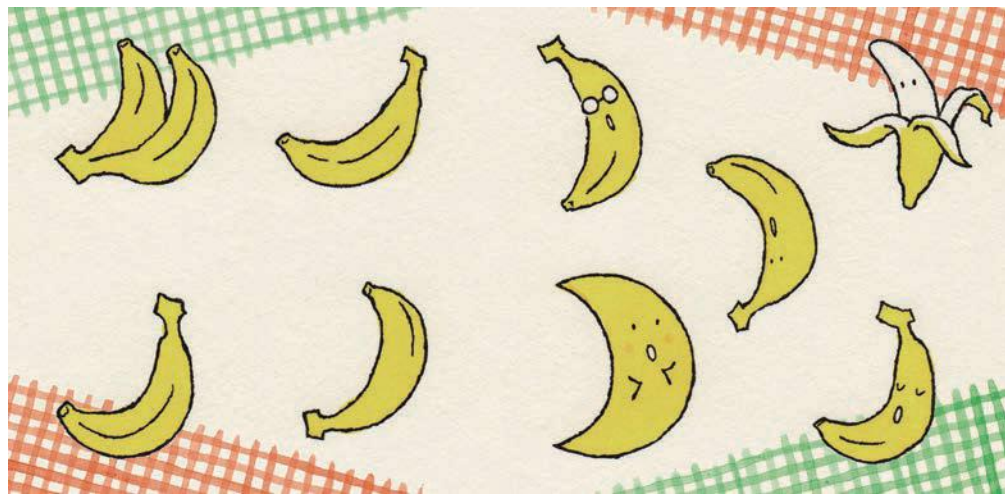
小野 こまど (茨城県)

作品について
 自分が誰かを忘れちゃうお話です。
 "もしかして"夜は寝ているから知らないのかも。
 でもこの見た目、分かりそうなものですよえ…?
 "ひょっとして"本当は知っている遊んでいるのかも。

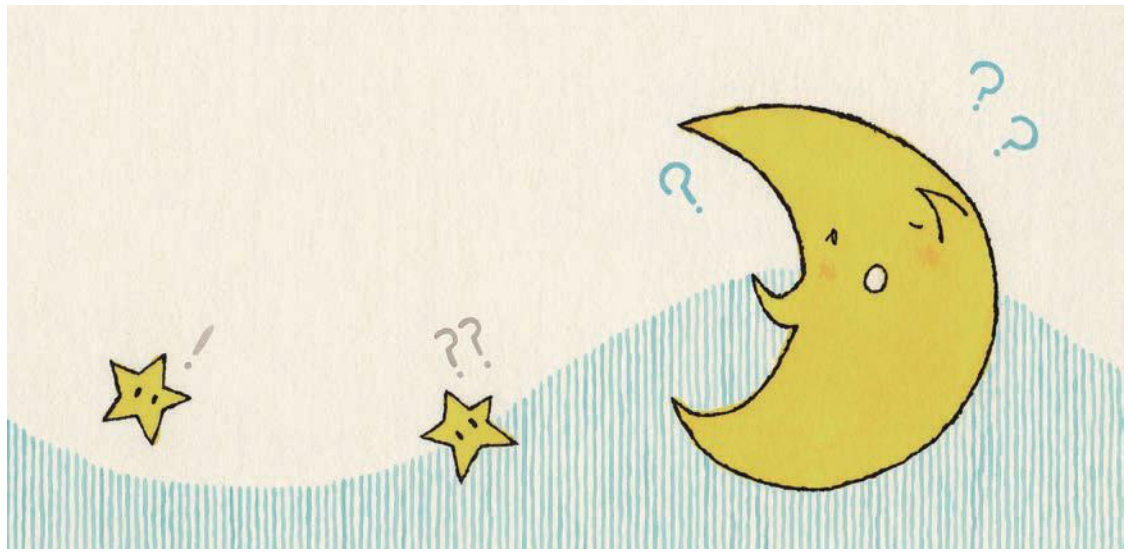
作者紹介
 小野 こまど (おの こまど)
 イラストレーター。
 パレットクラブ絵本コースを受講。第3回ビルボ絵本大賞で優秀賞を受賞。常陽小学生新聞にてイラストを担当。
 JAXAから車で15分の、大きな桜の木の家に住んでいます。



もしかして ぼくって ひよこ だったっけ? 「ちがうんじゃない?」 「ピヨピヨ ピイピイ」



ひょっとして パナナ? 「そうかなあ」 「どうかなあ」



あれ? ええと…… ぼくって だれだったっけ? あんまり ぐっすり ねむったから じぶんが だれかを わすれちゃった



ぼくは つ、つ、つ…… つみき じゃなくて つ、つ、つ…… つめ じゃなくて つ、つ、つ…… ツリー でもなくて

優秀作

『しずかにせかいにつつまれて』

うみべのねこ（東京都）

作品について

くろねこのしずかくん。あるひ きじらのツヅとあそんでいると めのまえをちょうちよがひらひらと。あとをつけていくと、そこは…。ねこたちのひみつのおはなしの はじまりはじまり。

作者紹介

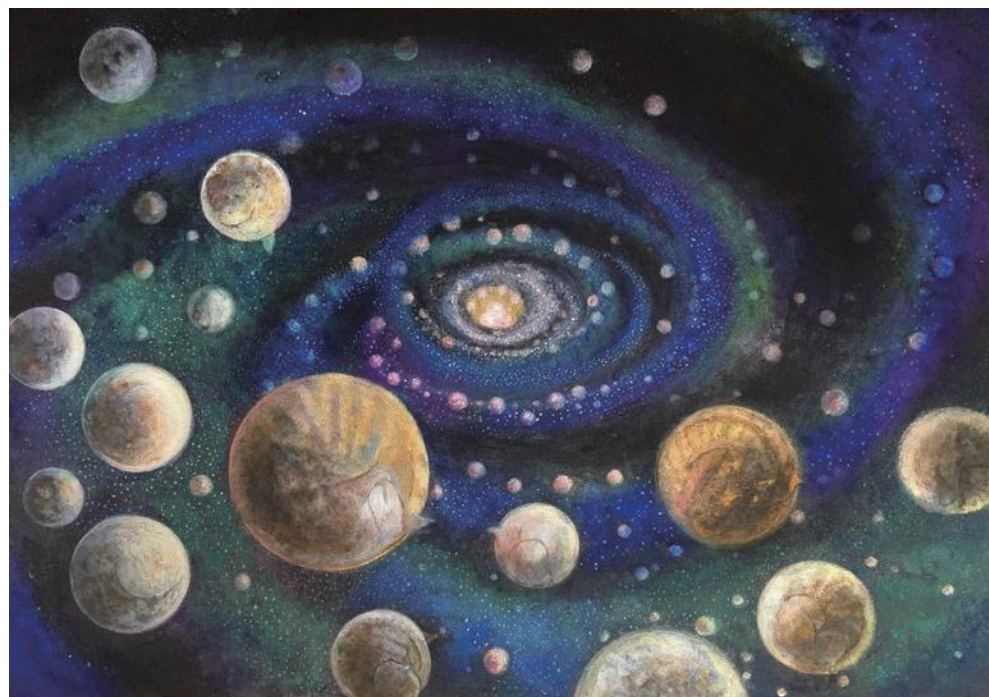
うみべのねこ
絵本のイラストや絵本創作などを行っています。
著書 絵本「ぶんちゃんとおにいちゃん」
2022年出版
(全国学校図書館協議会選定図書)



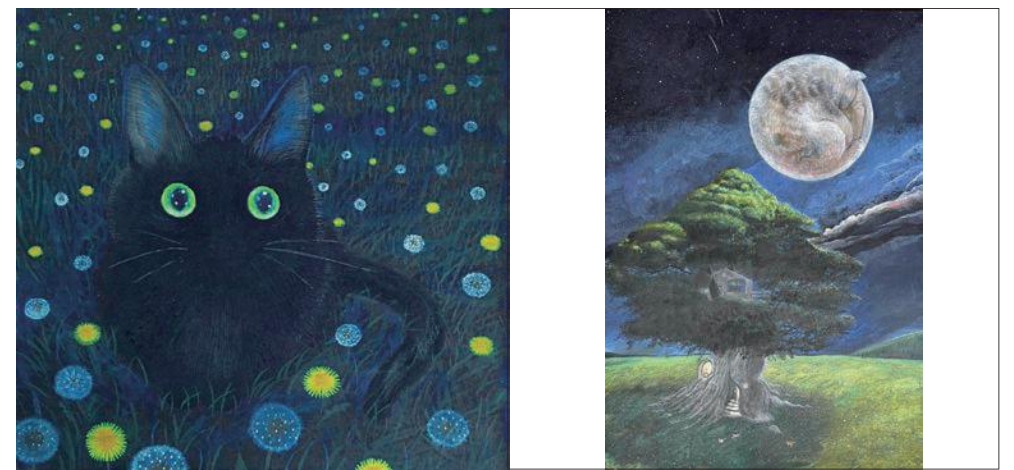
ここはどこですか？ってきくと まどのそとをみてっていうんだよ
だから じまんのまんまるのおめめでよく みてみたんだ



そうしたらなんと うちゅう！え！どういうこと？
ぼく うちゅうにきている！それで よくみてみたら ぼくはあることに きがついたのさ
ういてる ほし ひとつひとつが ぼくとおんなじ ねこってことに！



ねこたちの ひみつのおはなし はじまり はじまり



まんげつって いうから おそとにでると あれ？
おつきさまも ねこになっているよ

『雪と星座』

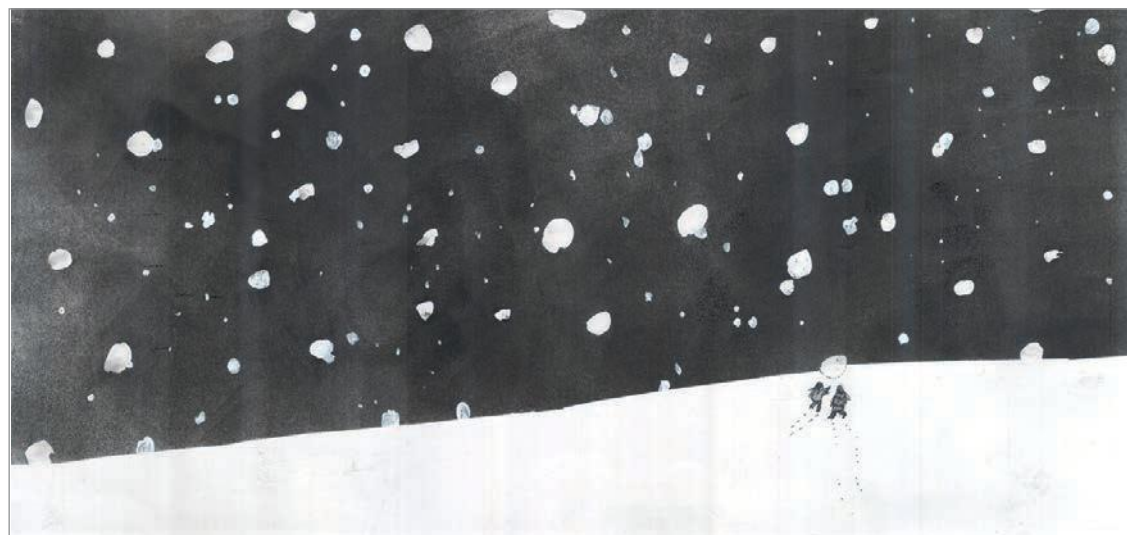
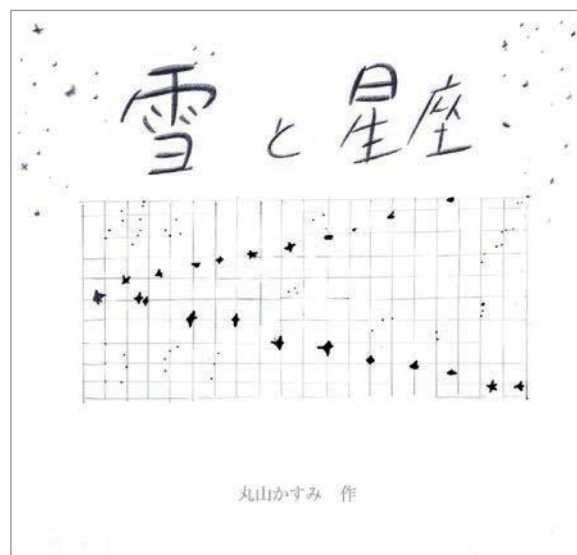
丸山 華澄（東京都）

作品について

おじいさんと女の子はふたりぐらし。おじいさんの仕事はまいにち欠かさず星を数えること。ある日おじいさんが出かけてしまい、おじいさんがいないはじめての夜がやってきます。

作者紹介

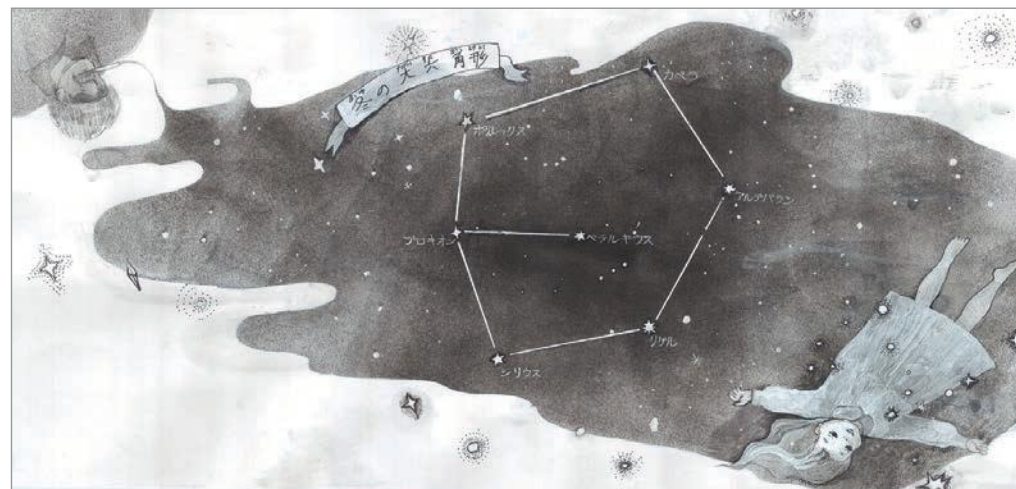
丸山 華澄（まるやま かすみ）
東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。同大学院修了。自身が初めて触れた絵画が絵本だと気づき絵本制作を試みる。大学四年の時に結婚し現在三姉妹の母。



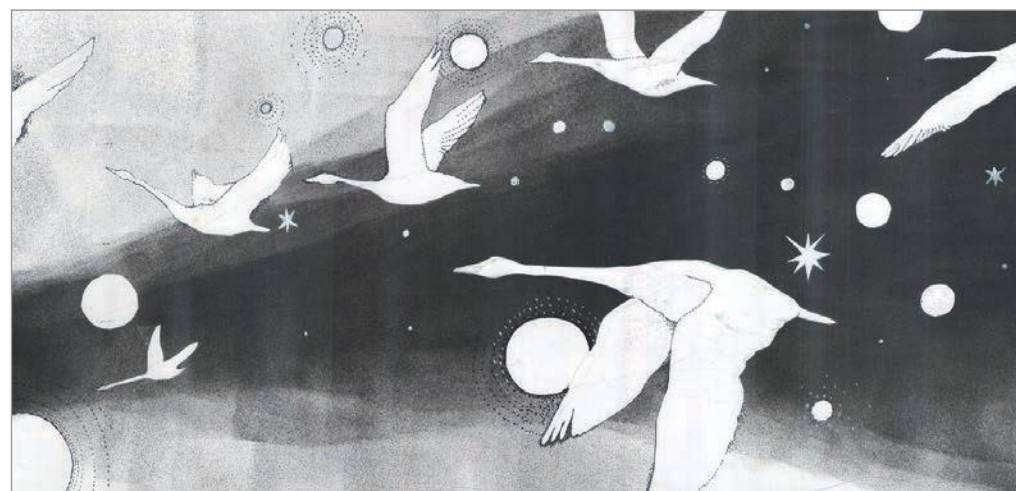
冬。女の子はおじいさんとふたりぐらしです。



おじいさんは、まいにち星を数えます。なぜまいにち星をかぞえるの？女の子が聞くと、大切な仕事なんだ、というのです。



冬の星空をおじいさんが教えてくれます。けれど、女の子にとってはどの星も同じくたいくつなものでした。



美しい星と旅鳥。

佳作

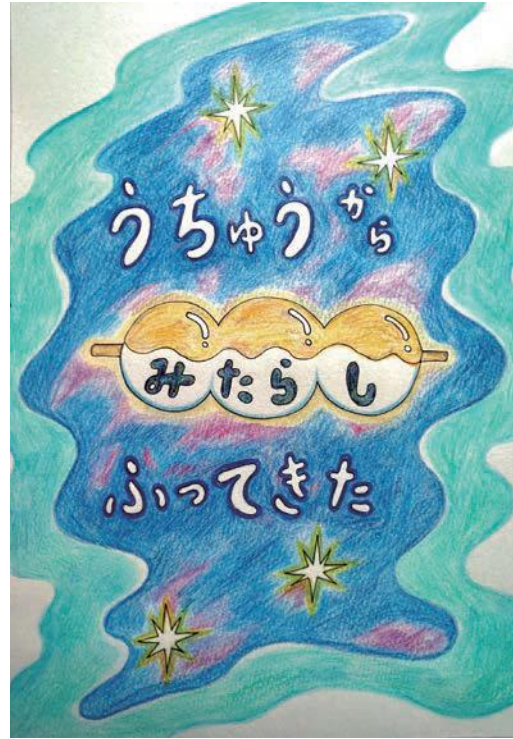
『うちゅうから みたらし ふってきた』 わかすぎ じゅんや (宮崎県)

作品について

宇宙から大きなみたらし団子が降ってきた。僕は驚いたけど興味津々。3人の可愛い宇宙人に頼まれて船の部品になりそうな物をあげると、お礼に宇宙ヘドライブに連れて行かれる。

作者紹介

わかすぎ じゅんや
2022年から絵やデザインの活動を開始。
2023年に絵本制作開始。誰も見た事のない、最高にイカした作品や絵本を出す為に日々精進。実はみたらし団子よりあん団子派(笑)



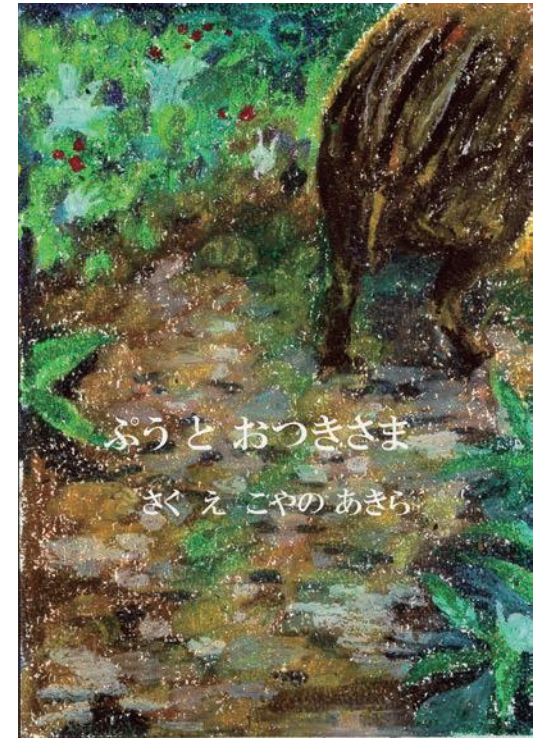
『ぶうとお月さま』 小谷野 晃 (東京都)

作品について

元気なうり坊の子「ぶう」には、気になって仕方のないことがありました。それは毎夜小さくなっていくお月様のことでした。ある日、お月様によく似た生き物と出会ったぶうは、一緒に旅にでます。

作者紹介

小谷野 晃 (こやの あきら)
保育士として、親として子ども達と関わる中で、教えてもらった多くのことをもとに、作品を作り続けています。ここまで導いてくれた出会いのすべてに、生き物たちに、心から感謝しています。



ある日、大きなみたらしだんごがふってきた



トンテンカントン、みんなでしゅうりだぼ



なおったば、おれいにうちゅうへいくぼ!



すごい! あっというまにうちゅうだ



ある山にイノシシの家族がすんでいました。



末っ子の「ぶう」は元気な男の子です。



ぶうには一つ気になることがありました。



それは小さくなっていくお月様のことでした。

公募について

三鷹市星と森と絵本の家では、星や月などの「天体」や、広く「宇宙」をテーマにした未発表の絵本作品を公募し、受賞作品の原画展を行っています。

令和5年4月に募集した「第10回三鷹市星と森と絵本の家回廊ギャラリー展示絵本作品公募」では、物語絵本や科学絵本、写真絵本など、個性あふれる54作品の応募があり、選考の結果、6作品が入賞しました。

選考委員

- 広松由希子氏（絵本家）
- 縣秀彦氏（国立天文台）
- 小谷奈保子氏（みたか・子どもと絵本プロジェクト連絡会代表）
- 梅澤尚子氏（おとな絵本ラウンジ代表）
- 三鷹市星と森と絵本の家館長

三鷹市星と森と絵本の家

住 所：〒181-0015 三鷹市大沢2丁目21番3号 国立天文台内

電 話：0422-39-3401 ファクス：0422-39-3402

開館時間：午前10時～午後5時

休館日：火曜日、年末年始、他にメンテナンス休館あり

アクセス：JR武蔵境駅、JR三鷹駅、京王線調布駅よりバスで15～20分

『天文台裏』または『天文台前』下車

<https://www.city.mitaka.lg.jp/ehon/>